朝日新聞　1991年（平成5年）12月24日

問い直す日本とアジア

何をした　戦争で苦労するのは、いつも女と子ども

従軍慰安婦

（今津氏が冒頭、明治初年までさかのぼり、太平洋戦争に至る経緯、その意味などを解説）

◆沈黙の恨＝一九九〇年、韓国KBSテレビ制作のドキュメンタリー（梨花女子大前教授の尹貞玉さんが、元慰安婦を各地に訪ねて聞き書き、それを韓国の新聞に掲載した。フィルムはこれをさらに映像化したもの）

北島　この フィルムで、元従軍慰安婦が「戦争で苦労するのは、いつも女と子ども」と言っていたが、頭（こうべ）を垂れて聞くしかない重みの ある言葉だ。山下さん、この「沈黙の恨」の反響はどうでしたか。

山下　韓国でも、従軍慰安婦問題の具体的事実はあまり知られていなかった。昨年一月、新聞に連載され、その内容が映像化されたのをきっかけに、いろいろな人たちが慰安婦について語るようになった。

北島　女性たちがカメラの前で話すというのは大変なことだったでしょう。

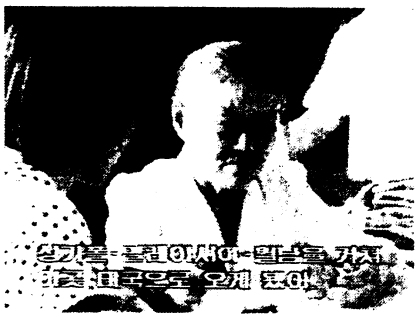
山下　この時点では、韓国国内では「従軍慰安婦だった」と名乗り出てくれる人はおらず、日本やタイなどにいる人の証言を集めた、と聞いています。韓国では、儒教の影響で女性の貞操観を重視する風潮が強いのです。

闇から闇へ

パン・チョンジャ（ペ）＝在日韓国民主女性会大阪本部事務局長　このドキュメントに出てくる沖縄在住のペ・ボンギさんは十月なかば、亡くなった。この人が、早くから「私は慰安婦だった」と証言してくれたからこそ、従軍慰安婦の存在が多くの人たちに知られるようになった。彼女は死ぬまぎわまで苦しみ抜き、慰安婦だったことによる不幸を一生背負って、だれにもみとられずにひっそりと死んでいった。

最近、韓国では、新たに証言に立たれた人もいるが、彼女たちにとっては、語ることも、黙って胸の奥にしまって生きることも、どちらも地獄のような苦しみのなかにいることに違いはない。

戦後、この問題は闇（やみ）に葬り去られてきた。日本政府は、全く反省しないばかりか、その事実さえ認めようとしない。怒りを覚える。日本が戦争の被害者の立場であり続けるかぎり、日本はいつまでも戦争の加害者であり続ける、といえるのではないか。誤った歴史をキチッと清算したうえで新しい未来に向かっていけるような、そういう関係を築いていくべきだ。



東南アジアを連れ回された苦しみを語る
＝「沈黙の恨」から

やっと提訴

福島　きょう（6日）、三人の、「従軍」というより「軍隊」慰安婦が、日本政府を相手取って提訴した。彼女たちは「お嬢さん、お嬢さん、日本にいけばいい仕事があるよ」とたまされ、釜山から船に乗ったとたん、自由を奪われた、という。ラバウルに連れて行かれた一人は、一九四六年三月ごろ、「最近日本の兵隊さんがこない」と不思議に思って尋ね、初めて敗戦を知ったそうだ。また別の元慰安婦は、上海郊外の二、三畳しかない軍用テントに、軍服を着せられ、四年間も押し込められていた。

日本政府は国会で「慰安婦を連れ歩いたのは民間業者であって、国や軍はいっさい関与していない」と答えている。しかし、軍自体が、梅毒の検査表を記載した軍報を出していたほか、「慰安婦は快楽の対象ではなく、衛生的な公衆便所である」との軍医から軍へあてた意見書も残っている。私たちはこういう事実を知る必要がある。

日本語の唱歌を習うインドネシアの子どもたち
＝戦時中の日本のニュース映画から

こういう状況を支えてきた日本の女性たちにも、大きな責任があったのではないか。「お嬢さん、お嬢さん…」と呼びかけるやり方は、バンコクやマニラでいまも行われており、構造は全く変わっていない。現代の問題として取り組んでいきたい。

敗戦で米兵へ

藤本　今津さんのお話にもありましたが、当時の日本の教育は、そういうことを全く教えない、知らせないものでした。知らなかったといえば無責任になりますけれど、慰安婦の人たちの存在すら、私は本当に知らなかった。あまりにも知らされなかったと思う。

このフィルムで、沖縄に連れて行かれた元慰安婦が「日本の敗戦で、女たちは今度は米兵の手に移った」と証言していました。女性たちは国を問わず犠牲になったわけで、これはいったいどういうことだろう、と二重に衝撃を受けた。

アイブ・ロンティ　インドネシアでも同じことがあった。「東京やシンガポールの学校に行かせてあげる」と若い娘たちを誘い出し、結局は慰安婦として使ったのです。

インドネシアではまだ「沈黙の恨」のようなドキュメンタリー映画をつくるまでには至っていないが、日本占領時代を描いた小説はある。これは、インドネシアの一少女が日本軍の慰安婦にされ、将軍相手から兵士相手、最後は売春宿の娼婦（しょうふ）になる、というストーリーです。当時私は七歳。家の近くに日本軍の慰安所があり、見に行ったこともある。

◆日本と朝鮮

名前も奪った皇国臣民化

日清、日露戦争で大陸への基礎を固めた日本は、一九〇五年、朝鮮に保護条約の締結を強要して「保護国」とした。一〇年、ついに日韓併合条約に調印させて植民地化を完成した。

総督府を置いて支配を強化した日本は、一九一九年朝鮮全土に広がった「3・1独立運動」を軍隊で鎮圧。国土の大半を日本人や日本企業のものにし、米の収穫の半分を強制買い上げし、発電事業や鉱工業を興すなど、朝鮮半島内の資源独占をはかった。

三七年の日中戦争前後から、半島を軍事基地化した。

太平洋戦争で、日本軍人、軍属として戦場に送られた朝鮮人は約三十九万人といわれる。徴用では定員に満たないと強制連行して鉱山や軍事工場で働かせた。従軍慰安婦として連行された女子も多く、強制連行された朝鮮人は八十万人を超えるとさえいわれている。

三十六年間の日本の支配は終戦で終わったが、米ソ対立の結果分断された「三八度線」は、関東軍と大本営軍の管轄境界線の名残でもあった。